

ひょうご 農地・水ニュース



農業の基本となる農地や水路、さらには美しい景観、豊かな生きもの、きれいな水を守り育む地域ぐるみの活動が農村集落で熱心に行われています。

また、今年度は第1期対策から第2期対策へ移行し、新たな5年間のはじまりとなりました。

この第2期対策でも、この皆様の活動の大切さを広く県民にPRするため、兵庫県、サンテレビ、メダカのコタロー劇団など関係団体協力のもと、年間を通じてイベントを開催していきます。

そしてこの「ひょうご農地・水ニュース」では、今年度の地域の取組をご紹介します。



CONTENTS

- P.2～3 第5回 ひょうご水土里のふるさとフォーラム 報告
- P.4 今年始めて共同活動を取り組んだ活動組織の紹介(神戸市) / 生き物調査(宝塚市)
農地・水・環境保全推進協議会 活動発表会(東播磨・北播磨協議会)
- P.5 東はりま メダカ復活大作戦(稲美町) / 銀の馬車道 沿線交流フェスティバル(福崎町)
/ サツマイモ収穫祭(太子町)
- P.6 意見交換会及び施設管理点検研修会(但馬地域)・ハグハグ環境学校(豊岡市)
/ おもしろいで丹波GOGOフェスタ(丹波市) / 下内膳農地・水・環境保全隊の活動紹介(洲本市)
- P.7～8 農地・水 第一期対策の効果検証／トピックス(水田貯留について)

第5回ひょうご水土里のふるさとフォーラム 平成24年12月15日（土）兵庫県公館で開催しました！

テーマ

『明日につなごう！！ひょうごの水土里～明日を伝え支える人づくり』

本県では、平成19年度から農地・水を地域ぐるみで保全する活動を支援し、多くの集落が積極的に取り組んできました。そして、6年目の今年、3月に策定された「ひょうご農林水産ビジョン2020」のもと、新たな集落も加えて、次の5年間のスタートを切ったところです。

一方でリーダーのなり手がなく活動の継続を困難とする地域が多いことが大きな問題となっています。

このフォーラムは、将来に渡って活動を継続するには何をすべきかを考えるため開催しました。

オープニングイベントでは、兵庫県立播磨農業高等学校「郷土伝統芸能継承クラブ」による農村歌舞伎「寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）」が公演され、熱の入った演技が会場を沸かせました。

また、公演後には、クラブ部長、副部長へのインタビューが行われ、クラブの紹介、農村に伝わる伝統文化を継承していく大切さを観客に伝えました。



農村歌舞伎の公演



知事挨拶

セレモニーでは、井戸知事による主催者挨拶が行われました。その後、特にすばらしい活動をされた集落の努力を讃えるため「みどり豊かなふるさと大賞」の授与が行われました（知事賞1地区、委員長賞4地区）。



受賞者記念撮影



表彰式



知事賞

しょう
庄集落ダブルクリーン保全隊

委員長賞

- 【保安全管理部門】
- 【豊かな農村環境づくり部門】
- 【地域づくり部門】
- 【環境創造型農業部門】

- おおぎちょう
大木町農地水環境保全委員会
- しもないぜん
下内膳農地水環境保全隊
- あそ
阿曾里づくり活動組織
- いざ
伊佐環境保全隊

基調講演「都市農村共生型の持続可能な社会づくりを目指して」

次に「NPO法人えがおつなげて」の曾根原代表による基調講演が行われました。

山梨県北杜市の過疎化・高齢化が急速に進む中山間地域で、耕作放棄されて久しい農地を学生やボランティアと一緒に復旧・開墾した経験を語って頂きました。

また、開墾後の企業の申し出による農作業の参画と連携、加工品（地酒）の販売など儲かる農業の仕組みづくりも語って頂き、農業の6次産業化、農業の可能性を熱く語って頂きました。

最後に「開墾！！モリモリ～」の掛け声で会場は一体となりました。農業の可能性を感じる夢ある講演となりました。



曾根原氏の基調講演

トークショー「取組を次世代につなぐために」

トークショーでは、まず優良な事例紹介として、知事賞「庄集落ダブルクリーン保全隊」、委員長賞「大木町農地水環境保全委員会」、「下内膳農地水環境保全隊」の3地区の代表の方々がその活動で力を入れてきた事、苦勞した事などを織り交ぜながら発表して頂きました。



しよしょう
庄集落ダブルクリーン保全隊
副代表 城谷章



おおぎちよう
大木町農地水環境保全委員会
代表 片岡正紀



しもないぜん
下内膳農地水環境保全隊
代表 出店利彦

事例紹介後、本題の「取り組みを次世代につなぐために」の実践方法をナビゲーターの谷五郎氏とコーディネーターの三野徹委員長、曾根原久司氏、事例発表者の3名で語り合いました。それぞれの地域の後継者探しについては、苦勞されている、正直不安ばかりとの意見もありました。曾根原氏の「今、手を打たないと地域がなくなってしまう」と言った説得力のある言葉や三野委員長の「地域のニーズに応じ、農地・水の事業自体も進化すべき」と言った制度設計上の問題からの意見など真剣な議論が展開され、会場は大いに盛り上がり、そしてテーマについての認識を深めました。



トークショー



トークショー（三野徹委員長、ラジオ関西 谷五郎さん）

このフォーラムの様子は、以下のHPから視聴可能です。是非ご覧下さい。

【ひょうごチャンネル】

<http://hyogoch.jp/channel/programview/id/755/>

【ユーチューブ】

<http://www.youtube.com/watch?v=TysgZhxKFbg>

平成24年度の県下の話題とイベントを紹介

神戸地域

初めて農地・水に取り組みました！（神戸市）

『小束野農地・水協議会』、『神納・ほうせい活動組織』は、初めて農地・水に取り組みました。取り組んだ感想は、草刈り等の活動に参加者が増えた事や農業用施設などの突発的な補修や懸案となっていた補修箇所が捻出できて良かったとのことでした。

また、野放しの雑草の草刈りにより集落がきれいになり、参加した組織同士の横のつながりが出来て、懇親を深めることも出来ています。

大変だったのは、事務や活動内容など初年度なので慣れないこともあり、わからない点が多かった点。

今後は、1年やってみてほしいのノウハウや流れがわかってきたので、施設の補修、安全対策、清掃活動など、みんなでいろいろ工夫して取り組んでいきたいと感じています。



1 清掃活動

2 水路の草刈り

阪神北地域

生き物調査（宝塚市）

平成24年7月31日（火）

『中部環境保全活動の会』で生き物調査が行われました。当該ため池に外来種が多く生息していることもあり、農村環境保全活動の一環として、子ども達と中部地域のため池（上池）の生物の生息状況を調査すべく魚釣りを実施しました。また、ため池周辺のゴミ拾いなど、ため池クリーンキャンペーンもあわせて実施しました。調査終了後には、生き物教室を行い、ため池などの生態系や外来種が及ぼす影響について公演が行われ、身近な農村環境にふれ合うことができました。

この活動は今年で5回目を数え、地域の子供たちへの環境学習の場、そして大人との交流の場として定着してきました。



生息状況調査のための魚釣り



生き物教室

東播磨・北播磨地域

農地・水・環境保全推進協議会 活動発表会（東播磨・北播磨地域）

平成25年2月23日（土）

東播磨・北播磨協議会の合同による活動発表会が行われました。オープニングとして、三木市内にあるコーラスグループ「すみれコーラス」による透明感ある合唱、その後に農林水産省 渡邊課長補佐から基調講演「第2期対策の概要」が発表されました。最後に各市町より推薦のあった5組織から、日頃の取組についての発表が熱心に行われ、優良な取り組みを進めてこられた地区の皆さんに会長賞・優秀賞の授与が行われました。また、このうち会長賞の地区は、次年度の「みどり豊かなふるさと大賞」の選考に進んで頂くことになります。



基調講演 農林水産省 渡邊課長補佐



事例発表会



表彰式

【優秀賞】 黒田農地水環境保全隊（西脇市）

高篠地区協議会（三木市）

大沢ため池協議会（加古川市）

【会長賞】 鞆野中町環境保全隊（加西市）

岡地区環境保全協議会（稲美町）

東播磨地域

東はりま メダカ復活大作戦(稲美町) 平成25年2月3日(土)

稲美町では、「東はりま メダカ復活大作戦」のイベントが行われ、ため池をテーマとしたメダカのコタロー劇団による環境アニメ紙芝居「地域で農地・水・環境を守ろう！」が上演されました。また、豊かなふるさとづくり推進委員である松本修二氏による環境学習教室「子供たちに伝える水辺の環境」も行われました。農業施設である「ため池」の成り立ちや意義についての理解も深まり、その保全のために農地・水保全管理活動の取り組みが大切であることを実感できました。



環境アニメ紙芝居の上演



メダカのコタロー劇団と記念撮影

中播磨地域

銀の馬車道 沿線交流フェスティバル(福崎町)

平成24年11月24日(日)

福崎町文化センターでは、『銀の馬車道 沿線交流フェスティバル』が開催され、会場では、農地水の優良な活動事例のパネルの展示されました。農地水の組織を中心に400名程度の地域づくりに熱心な方々に参加いただき、太鼓演奏や紙芝居など伝統文化の披露も行われ大盛況でした。講演は「水とむら 水が取り持つむら組織」という題で 岡山大学助教 本田恭子氏より農村社会の構造が混住化等により変容しつつあるなかでの農村社会のコミュニティ再生について福崎町の事例紹介による実践的なお話を頂きました。



講演状況



特産物の販売



パネル展示

西播磨地域

サツマイモ収穫祭(太子町)

平成24年11月10日(土)

太子町では、阿曾集落においてサツマイモ収穫祭が行われました。このイベントは、オーナー制度により都市農村交流や3世代交流を図り、季節ごとに開催されている村おこし活動の一環として、大きな盛り上がりを見せています。また、イベント当日には、サンテレビ(キラリけいざい)の番組取材もありました。

子ども達は、大きな“おいも”に興味津々で収穫をしていました。



子ども達による収穫体験



大きな“おいも”みつけた！

サンテレビ『キラリけいざい』にH25年1月19日(土)22:30～に放映されました。

但馬地域

意見交換会及び施設管理点検研修会（但馬地域）

豊岡管内 平成25年1月22日(火)、28日(月)、31日(木) 朝来管内 平成25年2月14日(木)、15日(金)

但馬では、但馬地域協議会主催で「意見交換会及び施設管理点検研修会」が行われました。但馬の活動組織を対象に5日間で行われ、人・農地プランの事業説明から始まり、集落営農の話題を中心とし、テーマである“地域ぐるみで集落農地・農業を考える”についての意見交換が行われました。意見交換では、グループに分かれ各活動組織から活動の報告や地域での問題点、苦労話が発表されました。また、施設管理点検についての研修も行われました。



研修風景



グループ意見交換会

但馬地域

ハグハグ環境学校（豊岡市）

平成25年2月25日(月)

市立港東小学校では、但馬地域協議会の地域イベントの一環として、“みんなでひよご豊岡の自然環境を考えよう”をテーマに、同港西小学校と合同で両校児童と幼稚園児ら170名が参加して、メダカのコタロー劇団による環境アニメ紙芝居&環境クイズを行いました。コウノトリの復活の話や外来種駆除などについて学ぶことができました。



アニメ紙芝居の上演



農村環境クイズ

丹波地域

おもろいで丹波GOGOフェスタ（丹波市）

平成24年10月21日(日)

農地・水保全管理支払交付金の活動が果たしている役割や農地・農業用施設の維持管理の大切さなどを多くの方に知ってもらうため、優良な活動事例のパネルや模型の展示を行いました。



農地水ブースの設置



パネル展示

淡路地域

下内膳農地・水・環境保全隊の活動紹介（洲本市）

平成24年11月11日(日)

下内膳農地・水・環境保全隊の活動がサンテレビ（キラリけいざい）の番組取材を受けました。当組織は、本年度のみどり豊かなふるさと大賞の『豊かな農村環境づくり部門』を受賞し、地域のシンボルである釈迦堂川について清掃活動をはじめ、水質検査を実施し、水環境に対する啓発活動として「下内膳生活排水情報」を発行しています。さらに、計画的にかいぼりを実施し、ため池の維持管理に取り組んでいることを紹介しました。



釈迦堂川の清掃活動



かいぼり

第1期対策の効果を検証しました

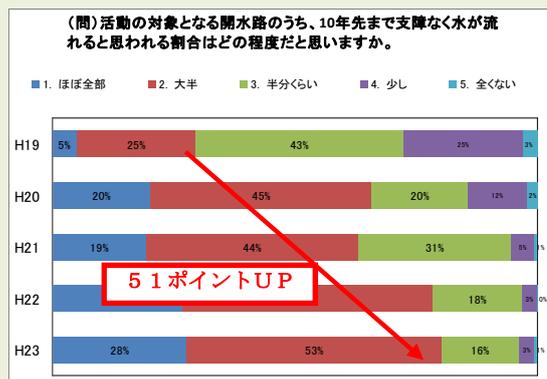
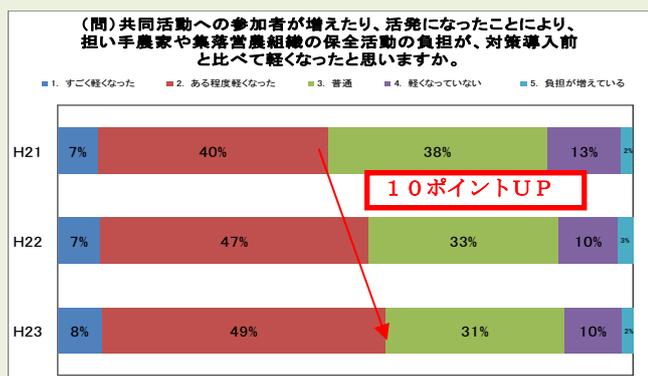
概要

これまでの活動組織へのアンケートをもとに第1期対策（H19～23）の事業効果を検証し、県設置の第3者委員会（豊かなふるさとづくり推進委員会）で報告しました。その3つのポイントを報告します。

I 農地と施設管理でのポイント

- ①維持管理の活動が、水路や道路などの施設の長寿命に繋がっています。
- ②農地の管理が遊休農地の発生防止に繋がっています。
- ③担い手農家の負担軽減に繋がっています。
- ④農家、非農家とも年々農村を守りたいとする意識が高まっています。

効果の裏付けとしてのアンケート結果。年々担い手への負担軽減や水路の長寿命化に繋がっていることが分かります。

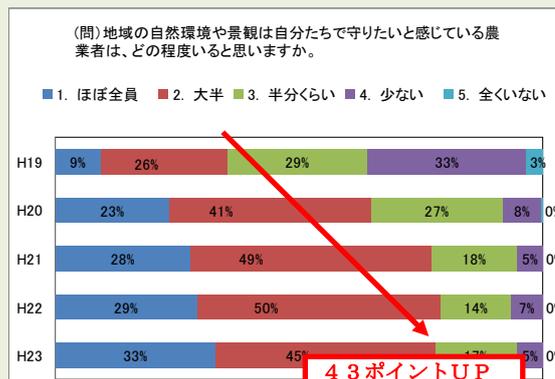
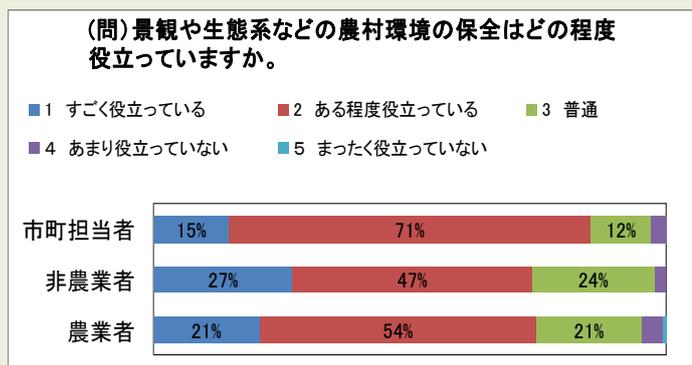


II 生態系、景観などの農村環境保全向上のポイント

○景観向上活動が約1,500組織で取り組まれ、地域の景観を向上する活動が県内で多く展開されました。また、景観向上活動が農村のコミュニティ向上に繋がっていることが分かりました。

○農村環境を守りたいとする意識が農家・非農家ともに向上しています。

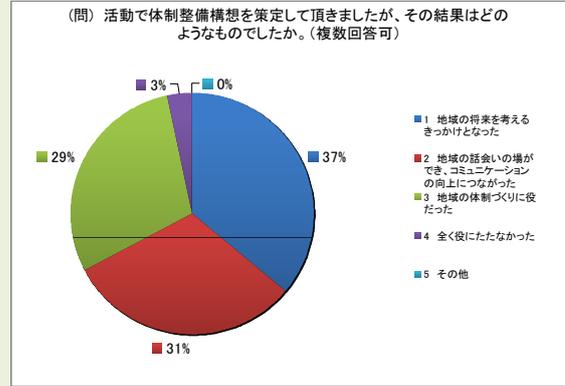
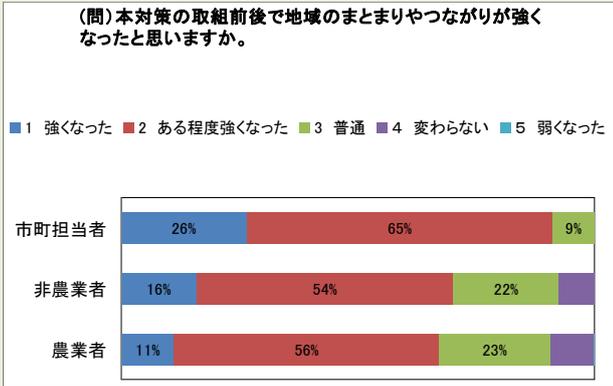
効果の裏付けとしてのアンケート結果。市町担当者、非農業者、農業者とも本対策が農村環境役だったと回答しています。また農村環境を守りたいとする意識も年々向上しています。



Ⅲ 地域社会、集落活性化のポイント

- ①本対策が地域のつながりや助け合いの精神の向上など農村コミュニティの向上に貢献しています。
- ②本対策にかかる体制整備構想の策定が、地域の話合いの場をつくり地域の将来を考えるきっかけづくりや集落のリーダーの育成、農村コミュニティ向上に繋がっています。

効果の裏付けとしてのアンケート結果。活動を通して人の繋がりがよまともりが深くなったと市町担当者、非農業者、農業者が評価している。また、体制整備構想の策定が、地域を考えるきっかけやコミュニケーションの向上に繋がったと評価されています。



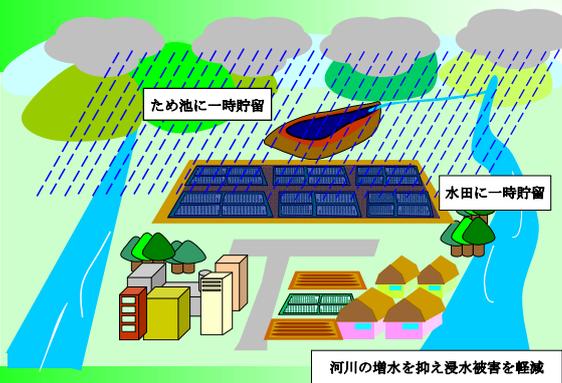
トピックス

水田貯留は、共同活動、向上活動の活動対象です

始めませんか！水田での雨水貯留

背景

近年のゲリラ豪雨多発などによる浸水被害が拡大しつつあるなか、兵庫県では、総合治水条例が平成24年3月に策定されました。川幅を広げるような河川工事に加えて、ため池や水田への一時貯留などみんなの地域をみんなで守る取組が必要となってきています。



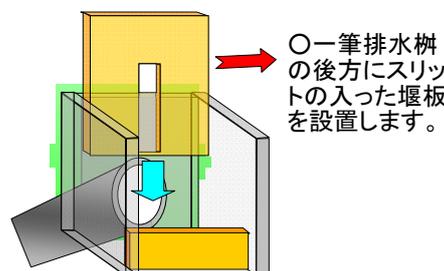
知っていますか

ため池や水田には雨水を一時的に貯留する治水ダムのような機能が備わっています。ため池と水田を維持管理し、少しの工夫をみんなですれば、大きな洪水防止効果が期待できます。このような取組をみんなで考えてみませんか。

水田貯留の取組方法

たんぼの一筆排水柵に堰板を設置すれば、準備完了です。中干し期や収穫前の落水期には取り組まないで結構です。また、稲が冠水しないよう概ね20cm以上になってから取り組んで下さい。

スリットタイプ



重ね木タイプ

